

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	福島
-------	----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	相馬市立向陽中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	6	4	5	1	16	31
生徒数	164	151	171	4	490	

研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力の向上を図る授業の創造」 ～発展的な指導を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生・国語 学区内の小学校と連携を図り、小学校から中学校へ移行する際の段差を解消するため。 小学校からの学力が低下する教科、学年であるため。 ・ 1年生・社会 学区内の小学校と連携を図り、小学校から中学校へ移行する際の段差を解消するため。 小学校からの学力が低下する教科、学年であるため。 ・ 1年生・数学 学区内の小学校と連携を図り、小学校から中学校へ移行する際の段差を解消するため。 小学校からの学力が低下する教科、学年であるため。 ・ 1年生・理科 学区内の小学校と連携を図り、小学校から中学校へ移行する際の段差を解消するため。 小学校からの学力が低下する教科、学年であるため。 ・ 1年生・英語 学区内の小学校と連携を図り、小学校から中学校へ移行する際の段差を解消するため。 小学校からの学力が低下する教科、学年であるため。

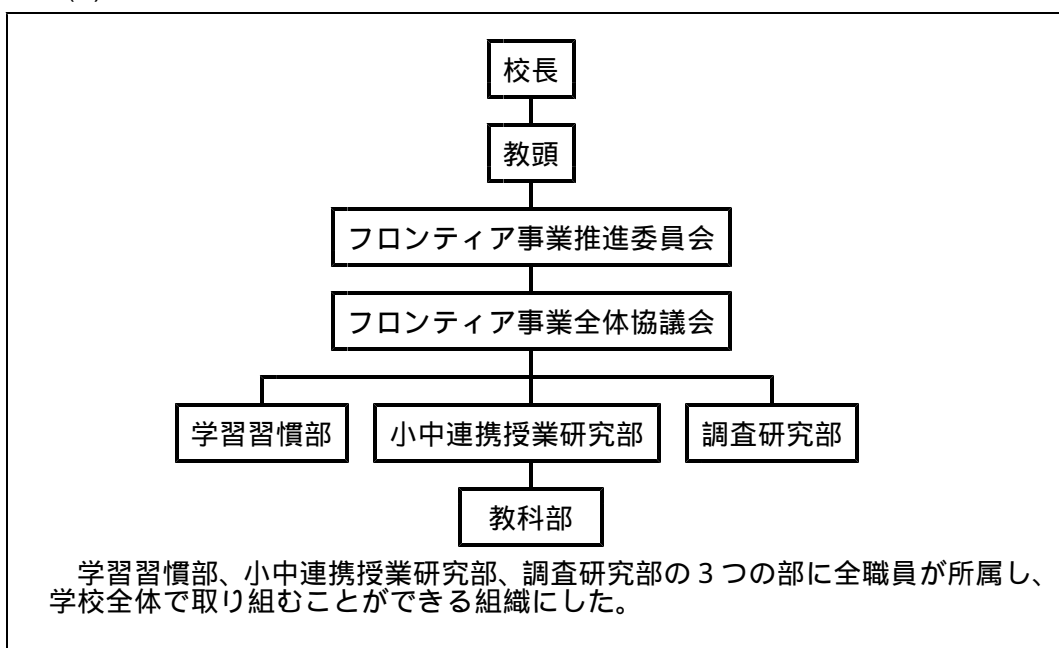
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「確かな学力の向上を図る授業の創造」 ～発展的な指導を通して～</p> <p>研究の見通し 生徒一人一人の関心・意欲、技能、知識・理解等の学習状況を把握するための学習カルテを活用し、個に応じた指導のための教材開発や多様な学習形態を工夫し、「広げる」「深める」「進める」などの3つの段階を踏まえた発展的な指導を取り入れれば、授業の質的改善となり、生徒の確かな学力の向上に繋がるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 (1) 授業の質的改善～個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NRTによる学力実態把握 ・ 学習に関する意識調査 ・ 学習カルテの作成と活用 ・ 発展、応用教材の開発
--------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ T・Tによる指導法 ・ 課題学習（習熟度別学習）の推進 <p>(2) 望ましい学習習慣の確立～家庭学習の習慣化を図る工夫～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭学習に関する意識調査 ・ 自分の学習に応じた自主学習ノートづくり ・ 家庭学習とリンクしたホームページの作成とその利用方法 <p>(3) 小中連携による指導のあり方～重点指導事項の選定とその指導体系作成</p>
--	--

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>H15年度に同じ</p> <p>研究の見通し</p> <p>H15年度に同じ</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>H15年度に同じ</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>授業の質的改善～個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 習熟度別学習は、生徒の学習意欲を高め、学力向上に繋がった。上位の生徒は、お互いに競い合いよい意味でお互いを高めあい課題を解決することができるようになった。 ・ コース別学習は、教師の教材に対する見方・考え方を深めることができた。 <p>望ましい学習習慣の確立～家庭学習の習慣化を図る工夫～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学期1回ずつ実施した漢字テスト、計算テスト、英単語テストにおいて、自主学習の内容を指導した結果、各テストに向けて意欲的に取り組み、成果を上げることができた。 <p>小中連携による指導のあり方～重点指導事項の選定とその指導体系作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校教諭とのT・Tを実施したことにより、小学校での学習の仕方や内容を踏まえた授業を実践することができた。 ・ 各教科で指導体系を作成し、次年度はその指導体系を生かした授業を実施することができる。

2. 今後の課題

- 授業の質的改善～個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善～
- ・ 習熟度別学習やコース別学習は、単元のまとめの段階で多く取り入れたが、生徒の実態に応じて単元の始めから実施する。
 - ・ 学習カルテの活用を継続したものになるよう、工夫・改善が必要である。
- 望ましい学習習慣の確立～家庭学習の習慣化を図る工夫～
- ・ 生徒に応じた家庭学習の内容になるよう工夫・改善が必要である。
 - ・ 学習の仕方など「新聞・ホームページ」で、保護者への啓蒙活動を行う必要がある。
- 小中連携による指導のあり方～重点指導事項の選定とその指導体系作成
- ・ T・T の授業を実施するための、事前事後の打合せの時間を確保できる教育課程を編成する。
 - ・ 小学校と中学校との指導する領域を同じにするため、指導計画に位置付ける。
 - ・ 連携授業では、中学校教諭が発展的な内容、小学校教諭は補充的な内容を指導する。

学力把握のための学校としての取組

教研式標準学力検査（NRT）

調査目的：生徒の学力の変容を客観的データとして、次年度の指導に役立てる。

実施内容：国語、社会、数学、理科、英語

時 期：毎年度 2月

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究公開

日時：平成16年10月

場所：向陽中学校

対象：1・2年生

HPの公開

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無